

生態系サービスの持続的利用を目指した 農林水産業由来カーボンクレジットの高付加価値化

パネルディスカッション資料

2024年3月26日
釜石地方森林組合
高橋 幸男 様

■ 釜石地方森林組合の概要

名 称

釜石地方森林組合

設 立

昭和60年2月8日
釜石市森林組合・大槌町森林組合合併

組合員数

1,615名

出 資 金

97,252千円

役 職 員

常勤理事 2名
(理事兼参事 1名)

非常勤理事 13名
監 事 3名

内業職員 7名
外業職員 12名
嘱託職員 1名

震災後 19名
内 1名神奈川県からの1ターン
独立職員(会社組織4名)

■ 東日本大震災津波被害



(震災前)



(震災後)



- ・ 組合長を含む 5 名もの命を奪われる。事務所全壊(未曾有の大被害)
- ・ 役職員 13 名を含む多数の組合員が被災し、避難所等で不自由な生活を余儀なくされた。
復旧は無理・合併しか？

林業経営

収益

・森林 1haあたりの収支見込額

収入	立木代金	3,600千円(400m ³ /ha)
	補助金	2,000千円
合計		5,600千円
支出	地 拵	400千円
	植 付	600千円
	下 刈	600千円(5年間)
	除 伐	150千円(1回)
	保育間伐	300千円(2回)
	間 伐	1,260千円(2回) (200m ³ /ha)
	主 伐	1,120千円(200m ³ /ha)
合計		4,430千円

50~60年手をかけても
 収入 5,600千円 - 支出 4,430千円
 ↓
 手元に残るお金が 1,170千円

<参考> 森林整備サイクルのイメージ

■ 森林整備のイメージ



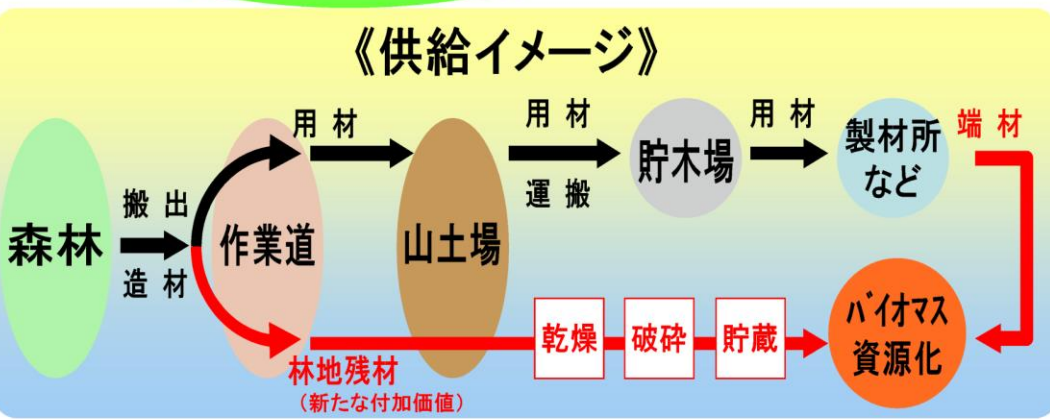
- ・立木代金と補助金収入で、ぎりぎり利益を確保
- ・造林から下刈りまでの初期(最初の5年間)コストが全体の約3割

■ 助成金を活用した森林経営の確立（バイオマス基金及び環境助成金の創出）

① 発電事業(IPP)

二酸化炭素を吸収した木材を燃やすことは二酸化炭素排出量を抑える。

林地残材の活用について



② J-Ver&フォレストック認定制度

森林の資産価値のみならず環境資産としての価値向上

釜石港に繋がる甲子川流域を中心に

釜石・平田、甲子地区の施業団地を申請

平成22年12月に認定分

同意所有者数 38名

同意森林面積 197.88ha

クレジット量 4,265 t-CO2 (平成26年に全量販売済み)

(内バッファ分 127 t-CO2)



森林整備事業(新植・間伐・作業路開設)

資産価値のみならず森林を所有することでの地域森林環境保全としての見える化

■ 森林業が果たす公益的機能向上への理解醸成



@SANU/Photo: 馮意欣 提供



@SANU/Photo: 馮意欣 提供



@SANU/Photo: 馮意欣 提供

株式会社 SANU & 関係企業 (35名)
カラマツ 739本、コナラ 314本
約0.52haの植樹を完成

・事業運営に関わり発生したCO2を
自らが森林整備活動を通じて吸収し、
「カーボン・ネガティブ」と
「地方農山村の環境・経済・社会に
貢献」(SDGsの実現)

・次年度以降も下刈作業を含め森林管理
支援とCO2の吸収量拡大に支援を
計画

・安全対策を確保後キャビン利用者へ
森林支援活動を醸成

・「人間が人間らしく生活するため
日常の生活から離れ、自分を見
つめ直す空間の提供」

グリーン社会の構築に向けたロールモ
デルになると期待している

① 森林体験・視察、② 林業担い手確保人材育成事業の活用

地域内外の企業、個人、小・中・高校生等に来て頂き地球温暖化防止について考えて頂き、
気候変動が他人事では無いことを理解していただく。

参考：コロナ禍前 訪問者 約600人/年 令和5年度 訪問者 約200人/年

企業研修等(BtoB)



環境教育活動



森林体験による植林



■ 今後の予定

① 森林体験・視察、② 林業担い手確保人材育成事業の活用

地域内外の企業、個人、小・中・高校生等に来て頂き**地球温暖化防止**について考えて頂き、
気候変動が**他人事では無い**ことを理解していただく。
産業構造への支援（森林環境を守ることの責任）

参考：コロナ禍前 訪問者 約600人/年 令和5年度 訪問者 約200人/年

③ ゼロカーボンシティ宣言（地域貢献）

管内自治体及び管内企業への貢献

④ 購入者へ明確なメリット

税制、融資枠、投資枠等及び貢献度の個別数値化証明書の発行、衛星写真を活用した管理方法確立